



# 子ども大学学生新聞

第42号  
子ども大学  
かわごえ新聞部

## 「相手の視点を知ることが大事」 岩崎暁男先生「国際理解を深めよう！」

一月二三日(土)午後一時四十分から東京国際大学第1キャンパス3号館314教室で東京国際大学教授・岩崎暁男先生による授業「国際理解を深めよう！」がありました。暖かくていい天気だったため、四年生四一人、五年生三四人、六年生三六人の合計一一人が出席しました。

まず先生は、ローマ字と英語の違いについて教えて下さいました。ローマ字の表記は、外国人に日本語になるべく近い発音をさせるためだそうです。「小野」をローマ字で書くと「オオノ」(大野)になるのです。



ほかに、日本の物を英語にする、と分かれると決めつけではダメと言われました。

例えば「七夕」は英語にすると「星まつり」、「ひな祭り」は「人形祭り」と書くので、日本でやっている本当のことが伝わりにくいということでした。  
(村田慎之輔記者 霞ヶ関南小6年、塩野 真記者 川越西小4年)  
**歴史の見方は国が違う**  
一時間目の授業では、初めに、歴史の出来事について、国によって見方がちがうことを話されました。たとえば一九四五年八月一五日は、日本では「終戦記念日」ですが、実際には九月二日に日本が「敗けました」という文書に調印したので、アメリカはこの日を「戦勝記念日」としています。また、韓国では八月一五日に日本の支配が終わった喜びから、この日を「光復節」と呼んでいるそうです。  
動物の鳴き声の聞き方もちがいます。牛は日本語では「モー」ですが、英語では「ムー」、犬は「バウワウ」です。数字の読み方も「千」は「サウザンド」、「一〇〇万」は「ミリオン」。人の名前は「姓」が後に来ます。  
最後に先生は、「国際理解のためには

相手の視点を知ることが不可欠」「情報リテラシーが今後求められる」といったまとめを伝え、授業は終わりました。少し難しい授業でしたが、みんな集中して聞いていました。  
(上杉 環記者 高階小6年)

### ☆岩崎先生にインタビュー

Q 先生はアメリカの大学に留学しておられたそうですが、大変だったことは何ですか。

A たくさん本を読んで、たくさんレポートを書かないといけないのが大変でした。人が一〇勉強したら、三〇勉強しなきゃいけないかったです。  
Q 子どものころの夢は何でしたか。

A 小学校のとき、学校の先生になりたかったです。「人の役に立つ仕事をしなさい」と母に言われていたからです。

Q 戦争はどうして起こるのでしょうか。

A 国が、より力を持ち、世界を仕切ろうという願望があるからです。  
Q (吉田真奈奈記者 坂戸市勝呂小5年) 白人はなぜえらいのか。なぜえらいときめつけるのですか。

A 歴史で活躍した人が多かったから、自分をえらいと思つたのでしょう。白人も、いい人もいれば、悪い人もいます。

Q (森下瑠稀記者 南谷小5年) イスラエルが首都をエルサレムにすると言つたことに、世界中は反対しているというニュースを見ました。自分の国が首都を決めるのは、どこでもいいと思うのですが、なぜ世界は反対しているのでしょうか。

A アメリカのトランプ大統領が言ったことです。エルサレムは三つの宗教の聖地です。もしエルサレムをイスラエルの首都にしてしまったら、三つの宗教のバランスがくずれてしまい、けんかのタネになるから、私は反対です。  
(堀 颯斗記者 高階西小6年)

### ☆記者の授業感想

◇藤山七海記者 霞ヶ関南小6年

日本人とアメリカ人のローマ字の読み方がちがうことが印象に残りました。日本人は「佐藤さん」と読んで、アメリカ人は「ゼイトウさん」と読んでしまうのだそうです。また「情報はすべて味が付いている」ことや、今の日本の『美』が欧米化していることについての興味深い話も聞きました。

◇新井悠希記者 大東西小5年

ぼくが授業を受けて印象に残つたのは「黒」の意味です。アメリカでは「黒」の意味は、少し変えると、「要注意」や「脅迫」などの悪い意味になってしまうのです。この授業を受けて「黒」はいい意味ではないことを知りました。

◇野口 和記者 仙波小6年

国際理解の授業を受けて思つたことの一つ目は、発信する意図がそのまま相手に伝わるか?でした。二つ目は、異文化交流の妨げとして考えられる点です。先生は、一滴でも黒人の血が入っていれば、黒人とされると言われ、心に残りました。三つ目は、認識のギャップです。外国人は日本人をアジア人として見ているということですが、国際理解について、いろいろ分かった気がします。

◇高橋るり子記者 霞ヶ関南小6年  
国際理解と言うと、外国のことを理解しようとしがちです。しかし私は、日本のことをよく知ること、例えば文化、歴史、伝統をより深く学び、それを世界に正しく発信することが国際理解につながると思います。

◇小畑美宙記者 高階西小6年

授業を受けて知ったことが二つあります。一つ目は、日本の文化を外国の人から見ると、全くちがう行事とかんちがいしているようです。ひなまつりが人形のまつりだったり、のりが海の雑草だと思ったりすることです。二つ目は、日本とアメリカでは動物の鳴き声の聞き方がちがうことです。牛の鳴き方がムー、やぎはバーです。初めて知ったことがたくさんあって、おもしろかったです。

◇杉山絢音記者 高階西小4年

授業で気になったことがあります。それは「虹は本当に七色?」です。それで家でネットで調べてみると、「世界的にはバラバラ」「日本でも昔はちがっていた」などが出てきました。その中で私に気がなったことがあります。「ニュートンが無理やり七色ということにした?」です。その記事によると、ニュートンは最初、虹は五色だと思っていたのですが、その後、音楽のドレミファソラの七音階に関係つけて「各色の帯のはげが音階の高さに対応している」と結論付けたと書かれています。

◇河原美佐子記者 中央小4年

先生は「あべ・だいすけ」をローマ字で書くと、アメリカ人は「あべ」を「エイブ」と読み、「だいすけ」は読めないと言われました。また、日本人は有名な

アメリカ人の名前を言えるけど、アメリカ人は有名な日本人の名前を言えないと聞いて、おどろきました。

◇田本 周記者 武蔵野小6年

ぼくは岩崎先生の授業を受けるまで、ローマ字を使えばアメリカ人に通じると思っていました。しかし、アメリカ人は「O」を「オ」とは発音せず、「オウ」と発音するなど、ローマ字で日本語が簡単に伝わらないことにおどろきました。なので、もしアメリカ人に会ったら、この国際理解の授業を思い出し、その人が分かるように工夫をしないとけないと思います。

## 第1回「英語で遊ぼう」



### 特別授業 「世界で生きる力をつける」

#### アメリカの先生 3人が英語で授業

特別授業「世界で生きる力をつける!」英語力・コミュニケーション力・国際力」の第一回授業「英語で遊ぼう」が一月二十日(土)二時から東京国際大学第一キャンパス図書館の教室でありました。対象は六年生の希望者二十人。三クラスに分かれて、アメリカ人の先生三人による授業がありました。ケアン・ムーア先生はお天気の話、授業、ケリー・ネルソン先生はスポーツ用具を書いた英語の文字を正しく並べかける授業、イアン・ランダル先生は動物の名前の授業をしました。二時間目は授業を受ける先生が代わりました。日本語

#### ☆記者の授業感想

を使わない英語だけの授業でしたが、みんな、がんばって先生の質問に答えたり、指示に従って動いたりしていました。

◇田本 周記者 武蔵野小6年

ぼくは最初、アメリカ人の先生が来る特別授業のことを聞いて、きちんと先生と英語で話せるか緊張しました。けれど先生と一緒に歌を歌ったり、ゲームをしたりして、こんなにかんたんに英語を覚えられることがわかりました。特に先生と「Mr. sun」という歌を歌うとき、ウクレレの曲に合わせて歌う英語の歌は、とても覚えやすく、同時に、歌だと発音が聞き取り



やすいので、もつと英語の歌を聞いてみようと思いました。ゲームでは、マウンテンやヘルメットの単語のスペルを書くことで簡単にスペルを覚えることができました。また二月二十四日にもう一回ある授業が楽しみになりました。

◇秋山花那記者 鶴ヶ島二小6年

(二時間目)私は英語が得意ではなくて、授業が始まった時、言葉が耳に入らなくて、頭が混乱しました。ゲームをしよう!

と先生が準備を始めたので、私はどうすればいいのかわからなくなってしまいました。けれど、動物のゲームと聞き、少し緊張がなくなりました。先生からいねいに教えてもらい、ゲームをたのしむことが出来ました。

(二時間目) 天気の授業をしました。晴れ、曇り、雨、雪の単語を最初に教えてくれました。次に天気のゲームをしました。各天気を使う道具を教室のいろんなところに置いて、先生が各天気の名前を出して、その時に使う道具を早い者勝ちで取りに行くというゲームです。先生がジェスチャーしながら説明してくれたので、ルールがよくわかりました。

(感想) 初めは先生がすごいおしゃべりだったので、びっくりしました。小学校でも英語の授業があるけど、日本語の説明があるので、あまり英語が分からなくても授業は簡単にわかります。今回の授業は、英語だけが使わなかったのも、そう甘くはないんだと感じました。でも、二時間聞いてみると、耳が慣れてきて、楽しめました。次回は楽しみです。

◇堀 颯斗記者 高階西小6年

初めに男の先生の授業を受けました。早口だったので、三割ぐらいしか分かりませんでした。学校では週一時間、アメリカの先生による英語の授業があります。今日の授業は習っていない英語がいっぱい出てきたので、先生の言うことをメモを取りながら聞きました。

今日の授業を受けながら、英語でみんなとつながり合えることを実感しました。2020年に東京でオリンピックが開かれますが、外国人と会ったとき、何か英語で会話ができたらいいなと思います。